

平成20年度 柏市保健衛生審議会・各部会の経過と概要

<p>部会名 又は 専門分科会名</p>	<p>がん対策専門分科会</p>																																												
<p>所属委員  (五十音順)</p>	<table border="0"> <tr> <td>会長</td> <td>長瀬 慈村 委員</td> <td>(保健医療部会)</td> <td>遠藤 久人 委員</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>山木 まさ 委員</td> <td></td> <td>村川 康子 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>秋月 伸哉 委員</td> <td></td> <td>矢部布志夫 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>佐々木 寛 委員</td> <td></td> <td>中村 佳弘 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>酒井 英樹 委員</td> <td></td> <td>山本 信子 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>金子 明代 委員</td> <td></td> <td>内富 庸介 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>羽田 明 委員</td> <td></td> <td>笠原 洋勇 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計 7名</td> <td></td> <td>野坂 俊壽 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>小林 正之 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>宮崎美砂子 委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>計 10名</td> </tr> </table>	会長	長瀬 慈村 委員	(保健医療部会)	遠藤 久人 委員	副会長	山木 まさ 委員		村川 康子 委員		秋月 伸哉 委員		矢部布志夫 委員		佐々木 寛 委員		中村 佳弘 委員		酒井 英樹 委員		山本 信子 委員		金子 明代 委員		内富 庸介 委員		羽田 明 委員		笠原 洋勇 委員		計 7名		野坂 俊壽 委員				小林 正之 委員				宮崎美砂子 委員				計 10名
会長	長瀬 慈村 委員	(保健医療部会)	遠藤 久人 委員																																										
副会長	山木 まさ 委員		村川 康子 委員																																										
	秋月 伸哉 委員		矢部布志夫 委員																																										
	佐々木 寛 委員		中村 佳弘 委員																																										
	酒井 英樹 委員		山本 信子 委員																																										
	金子 明代 委員		内富 庸介 委員																																										
	羽田 明 委員		笠原 洋勇 委員																																										
	計 7名		野坂 俊壽 委員																																										
			小林 正之 委員																																										
			宮崎美砂子 委員																																										
			計 10名																																										
<p>経過と概要</p>	<p><b>第1回 がん対策専門分科会(開催日 H21.7.10)</b>          がん対策専門分科会会長ほか4名,保健医療部会委員3名出席          議題:(1) 県のがん対策の動向について          (2) 東京慈恵会医科大学附属柏病院の地域がん診療連携拠点病院の取り組みについて          (3) 国立がんセンター東病院の緩和ケアに関する取り組みについて(「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」)          (4) がん対策専門分科会の進め方について          概要:前記(1)から(3)までの概要について認識を共有し,今後の専門分科会においては,「がんの予防」から「がんになっても安心して暮らせるまちを目指したネットワークづくり」までの議論を進めていくことを確認した。</p> <p><b>第2回がん対策専門分科会(開催日 H21.9.4)</b>          がん対策専門分科会会長ほか6名,保健医療部会委員2名出席          議題:(1) 千葉大学のがん予防の取り組みについて          (2) 柏市立柏病院のがん治療の取り組みについて          (3) 千葉大学柏の葉診療所の緩和ケアの取り組みについて          (4) 柏市のがんの状況について          (5) がん予防について          概要:千葉県がんセンター研究局 疫学研究部 三上部長を迎え,千葉県及び柏市のがん死亡率と罹患の状況(解説1)を確認するとともに,前記(1)から(3)までの概要について認識を共有した。          また,若い世代のがん検診新規受診者を増やすための啓発を推進することを提案する一方,検診受診者の高齢化への対応,検診の</p>																																												

正しい受け方の啓発，精密検査の未受診者に対するフォローアップ，検診データを市民が生かせるような事業の改善等の課題について議論した。

**解説1【柏市のがんの年齢調整死亡率と年齢調整罹患率状況・概要】**

- ・柏市の男性のがんによる年齢調整死亡率は，胃がんは第2位で減ってきており，肺がんが第1位にある。引き続き肺がんがトップを占めると思われるので，肺がん対策は重要な課題。
- ・柏市の女性のがんによる年齢調整死亡率は，大腸がんがトップになっている。
- ・柏市の男性のがんの年齢調整罹患率は，肺がん，胃がん，次いで大腸がんとなっている。（胃がんは減少してきている。）
- ・柏市の女性のがんの年齢調整罹患率では，胃がんが減少しているが，乳がんが1985年くらいから著しく増加しており，次いで大腸がん，胃がんとなっている。
- ・柏市の罹患率のデータを全県と比較すると，全がんでは，男性も女性も全県より低い，男性では，食道がん，膵臓がん，肺がんといった都市部に多いがんが多い。女性では，肝臓がほぼ同じ，県を上回っているのは，胆嚢・胆管，膵臓がん，肺がんという都市部に多いがんである。
- ・これらのことから，肺がん，大腸がんの予防は重要。
- ・いずれのがんも，柏市が突出して多いという傾向はないので，種別を選んで，重点的対策を講じる必要があると思われる。
- ・1980年代には，子宮頸がんは60歳代のがんだったが，徐々にピークが移ってきており，40歳代のがんになっている。

年齢調整死亡率：年齢調整が著しく異なる人口集団の間での死亡率や，特定の年齢層に偏する死因別死亡率などについて，その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる統計指標。

**第3回がん対策専門分科会（開催日 H21.10.30）**

がん対策専門分科会会長ほか5名，保健医療部会委員1名出席

議題：がん対策骨子の論点整理について

概要：まずは「たばこ対策」をがんの予防対策の柱の一つとし，可能なことから実施していくことを提案。その他のがんの予防対策としては，重点的・効果的な啓発方法を短期に試みることを提案した。

他に，保健所のがん対策の取り組みとして，7月のレイソルホームタウンディでの啓発，「緩和ケアを知る100冊講演会」の開催，9月「がん予防キャンペーン」，「がん征圧月間懸垂幕」の掲示，「がん対策・職員セミナー」の開催，健康づくり推進員へのピンクリボンキャンペーンへの協力依頼等の活動成果について報告を受ける。

**第4回がん対策専門分科会（開催日 H21.1.8）**

がん対策専門分科会会長ほか5名出席

議題：(1) がん対策骨子の論点整理について

(2) 医療連携ネットワークについて

	<p>概要：一つのテーマ（臓器）を取り上げて、連携やネットワークを考えていくことを提案した。まずは予防から検診，患者支援まで実績のある乳がんに絞り，（仮）「乳がん連携ネットワーク」をテーマとして関係者から意見を聴く（<a href="#">解説2</a>）取り組みを試みることとなる。</p> <p><b>第5回がん対策専門分科会（開催日 H21.2.19）</b></p> <p>がん対策専門分科会会長ほか4名 保健医療部会委員1名</p> <p>議題：がん検診に関する啓発の検討</p> <p>概要：市民に配布しているがん検診啓発媒体について保健センターから説明を受け，内容を検証。検診の意義や内容が誰にでも理解できるように，また，資料を見てすぐに柏市のがん予防・がん検診をイメージできるように，統一感を持たせた啓発媒体づくりを提案した。さらに，子宮がんの啓発について平成21年度に重点的に取り組むことを提案した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>解説2 【乳がん意見交換会・概要】</b></p> <p>&lt;平成21年2月25日（木）開催&gt;</p> <p>「がんになっても安心して暮せるまちづくりを目指して」，「乳がん」をテーマに，予防から緩和ケアに関わる専門医，看護師，福祉関係者，行政職員等29名から意見を聴いた。抽出された全がんに共通する課題としては，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん予防やがんに関する知識の普及のあり方</li> <li>検診実施機関の質の向上</li> <li>がん患者への情報提供</li> <li>患者会支援</li> <li>医療機関や在宅療養を支える専門職との連携とネットワークづくり</li> <li>ケアマネージャーと医師との連携の重要性</li> <li>退院後の在宅療養を担う近隣の主治医の把握方法</li> <li>在宅医療を後方支援するシステムの必要性</li> <li>在宅医療を支えるチームづくりとその合意</li> <li>在宅療養に必要な機材の共有の可能性</li> <li>「がん」患者と口腔ケアの重要性</li> <li>喫緊対策が求められる在宅療養・がん患者への迅速な対応</li> <li>多様な患者さんの状況に適切に支援できる社会資源</li> <li>かかりつけ薬局の役割への期待と市民へのPRの強化</li> <li>求められているところのケア・グリーフ・ケア 等，</li> </ul> <p>今後，がん対策専門分科会に上記課題の検討を提案し，「がんになっても安心して暮らしていくことができる」ための相談支援体制の整備と地域包括ケアネットワークへの具体的な方策を審議していく。</p> </div>
<p>添付資料</p>	
<p>平成21年度の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防から在宅療養まで「がんになっても安心して暮らしていくことができる」ための相談支援体制の整備と地域包括ケアネットワークへの具体的な提言</li> <li>・長期的な視点で効果的な啓発方法をシステム化していく提案</li> <li>・たばこ対策への具体的な提案</li> </ul> <p>次回 5月7日（木）開催。その後，年度内4回の開催を予定。</p>